



地球ギャラリー vol.20

# Bangladesh

[ Bangladesh ]

文・写真=山田 真 (写真家)

## スラム レールの 上の

幹線線路の両側には、数百メートルに渡ってスラムが続く

E.ダッカ中心部のランドマークショッピングセンター「ボシュンドラシティ」



アジア最貧国の一つバングラデシュは、日本の4割ほどの国土に、世界第7位の人口(約1億6000万人)を抱える超過密国家として知られる。首都ダッカの、日系高級ホテルや大型ショッピングセンター、マスメディアのオフィスが集まる中心部から歩いて10分ほどの所には「カウラン・ポステイ」と呼ばれるスラムがあり、ここでは粗末な家々が幹線鉄道の線路を挟み込むようにして乱立している。

カウラン・ポステイを歩いていると列車の警笛が響いた。メインストリートの両側に連なっている家の軒下に飛びのく。特急列車が緩いカーブを抜けてスラムに滑り込んできたのだ。



F.家族の夕食の準備をする女たちの笑顔は明るい

ゲームをしている。「プォーン、プォーン、プォーン」と追って来た列車が刺すような警笛を浴びせると、ようやく子どもたちはゲーム台をスツと持ち上げる。しかし、数歩歩いて隣の線路に座り込むと、そこでそのままゲームを続けている。通過する列車を尻目に、鮮やかなまでのふてぶてしさだ。ここに居ると、線路の後にスラムができたのか、スラムの後に線路を通したのか分からなくなってしまう。

G.次の列車が来るまで、子どもたちのゲームは続く



A



D



B



C

A.線路沿いに広がるカウラン・ポステイ。インド行き国際列車が走り抜けてゆく  
B.カウラン・ポステイは、ダッカ中心部と対照的な眺めだ  
C.新しい家族が川沿いのスラムに移住してきた。雨期には床近くまで水が迫ってくる  
D.スラムの人々は、線路脇に作ったかまどで煮炊きをしている

K.イクバルさんの息子サイフル君は市場が休みの朝、プラスチック拾いに出かけて行った



H.肌寒い早朝、夜露に濡れたベッドに女の子が一人うずくまっていた



L



J.出来上がった竹ザルは、カウラン・バザールで働く日雇い労働者たちにレンタルされたり、売られたりしている



I.家の前で、荷運びに使う竹ザルを作る男性



M

L.早朝のカウラン・バザールのフィッシュマーケット  
M.カウラン・バザールの出稼ぎ労働者たち。仕事が終わると路上で眠っていた

線路脇で竹ザルを作るイクバルさんは、7年前に北部の町シエルプールからカウラン・ポストイにやって来た。「故郷では川砂利集めをしていました。収入はそのころより増えましたが、ダツカの家賃が高いため、ここ以外では生活していきません」。8歳の次男は学校へ通っている。しかし11歳の長男サイフル君は、イクバルさんが作った竹ザルを近くの生鮮市場カウラン・バザールへ持っていく仕事をやる。ほかに3歳になる娘もいる。

スラムの家庭は、とにかく子どもの数が多い。子どもたちの多くは何か仕事をしているため、授業料が無料でもなかなか学校へ通えない。子どもたちを学校に通学させるのは、家計からその分だけ収入が消えることを意味するのだ。

子どもたちが成長したとき、貧しさにあえいでいた自分の両親と同等か、それ以下の生活しか望めなくなるといふ悪循環は、ここで始まっている。もし両親が、生まれてくる子どもの数を1人か2人までに制限できるなら、何とか公立学校へ通わせることができるはずだ。

家族計画の大切さをスラムの人々に教える取り組みは、バンングラデシュ政府も現地NGOも始めている。しかしその効果がこの場所で確認できるのは、一体いつになるのだろうか。



理科数教員を養成するための研修で、化学反応の実験を学ぶ学生たち

母子保健サービスの質の向上に向けたコミュニティー支援活動も行っている



円借款事業では、農道だけでなく農村市場も整備しており、経済活動の活性化が図られている

## JICAの活動 in バングラデシュ

# 最貧国からの脱却を目指して

狭い国土に多くの人口を抱え、たびたび自然災害に見舞われる最貧国バングラデシュ。貧困からの脱却とともに、近年の経済成長を維持していくため、JICAはインフラ、社会開発、ガバナンスなどの分野を中心に支援を行っている。

バングラデシュはヒマラヤ山脈とベンガル湾に挟まれた低地にあり、国土を流れる大小さまざまな河川の河口に位置する。そのため、洪水やサイクロンなどの自然災害が頻発。近年は、輸出の約70%を占める縫製業により平均5%以上の安定した経済成長を続けるが、依然、貧困層は人口の約4割にも上る。また、汚職のまん延や脆弱な行政システムなど、ガバナンス面でも課題が多く、農村部に教育や保健といった基本的な社会サービスが十分行き届いていない。そうした問題の解決に向けてJICAは、「経済成長」「社会開発と人間の安全保障」「ガバナンス」を重点分野として支援している。国土を南北に貫くように流れる3つ

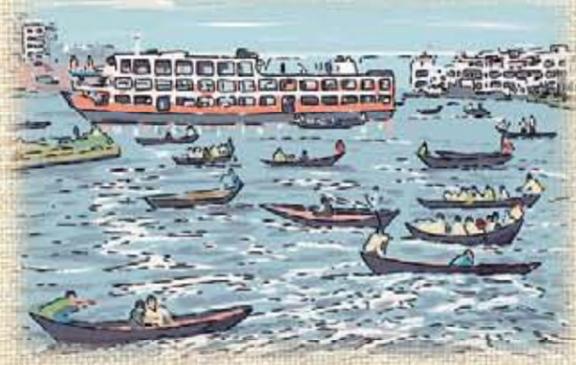
の河川を挟み、東西に分けられる同国。首都ダッカや第二の都市チッタゴンなど工業・商業都市を要する東側が成長の原動力となっているが、その恩恵は西側に届いていない。特に南西部はサイクロン被害が甚大な上、全国的に比較して貧困対策が遅れている。そこでJICAは、東部でさらなる経済活動の基盤づくりを支援する一方、南西部の14県で、円借款を通じて農道、市場、橋、船着場などを整備。自然災害に強いインフラの確立により、農村部の経済活動の活性化や社会サービスへのアクセス向上を目指す。また社会開発分野では、特に課題である理科数教育の指導方法や教員

の質の向上に協力。プロジェクトで開発された教員用参考書は全国配布され、今後も他の援助機関と連携しながら、協力を拡大する予定だ。ガバナンス分野では、縦割り行政の弊害などから社会サービスが行き届いていない農村部で、住民のニーズを行政が吸い上げ、適切なサービスを提供していくための仕組み「リンクモデル」を構築している。

### ■JICAの協力実績(人数ベース) 2009年3月31日現在

	2008年	累計
研修員受入	207人	5,621人
専門家派遣	99人	1,492人
青年海外協力隊	25人	993人
シニア海外ボランティア	0人	8人
事務所開設		1974年

数多くの河川が流れ、「川の国」とも呼ばれる。さまざまな種類の船が川を行き交う。



地球ギャラリー Vol.20

## Bangladesh

バングラデシュ

Illustration / Hori Takao



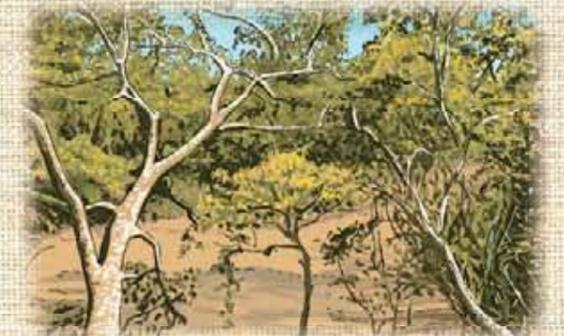
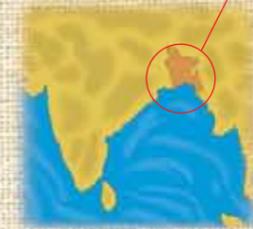
北海道の約2倍の面積に日本とほぼ同数の人口を有し、人口密度が非常に高い。



グラミン銀行の設立者ムハマド・ユヌス。マイクロファイナンスによる貧困削減に貢献し、2006年、ノーベル平和賞を受賞。



首都：ダッカ  
面積：14万4,000万km<sup>2</sup>(日本の約4割)  
人口：1億6,000万人(2010年)  
公用語：ベンガル語  
宗教：イスラム教徒89.7%、ヒンズー教徒9.2%、ほか  
1人当たり国民総所得(GNI)：520ドル(2008年)  
経路：日本からの直行便はなく、タイやマレーシア経由などが一般的。  
通貨：タカ(BDT) 1BDT=約1.3円(2010年4月現在)  
気候：亜熱帯モンスーン気候。11月~2月の冬季は温暖で乾燥するが、夏季3月~6月は高温多湿、7月~10月はモンスーンによる豪雨が続く。



南部に広がる世界自然遺産「シュンドルボン」。マングローブの天然林として世界最大規模を誇る。



**Ruchi (ルチ)**  
〒173-0014 東京都板橋区大山東町28-10  
TEL: 03-3579-8631  
ランチ: 11時半~15時  
ディナー: 17時~23時(金・土曜は深夜3時まで営業)  
定休日: 日曜日

☆地元では「イリシユ」という魚を使うが、日本では手に入らないためサバで代用可。

1. サバを適当なサイズにぶつ切りし、油を引いたフライパンで焼く。
2. サバをいったん取り出し、同じ油でタマネギをキツネ色になるまでいためる。
3. ジンジャーペースト、ガーリックペーストを加え、材料が浸るくらいまで水を入れる。
4. ターメリックパウダー、チリパウダー、トマトケチャップを加え、3分ほど煮込む。
5. サバを戻し、3と同量の水、薄切りにしたトマトを入れて、3分ほど煮込む。塩で味を整え、お好みでパクチーを添えて完成。

〔マチェル・トリカレー〕  
〔材料(1人前)〕  
サバ1尾 / タマネギ2分の1個 / トマト

2分の1個 / チリパウダー 小さじ4分の1 / ターメリックパウダー 小さじ2分の1 / ガーリックペースト 小さじ2分の1、ジンジャーペースト 小さじ2分の1、トマトケチャップ 大さじ1 / 塩適量 / パクチー適量

「ルチ」は、路地裏に佇む隠れ家のお店。確かな腕前で、バングラデシュの家庭の味を再現している。魚のカレー「マチェルトリカレー」は人気メニューの一つ。トマトとスパイスがよく効いたルーは、酸味と甘みがよく溶け合っただけでさっぱりとした味わいだ。インドカレーとはひと味違うバングラデシュカレー。さっそく明日の夕食にいかが？

### バングラデシュ料理 さっぱり魚のカレー 「マチェル・トリカレー」

